

特集：医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

個別学習の促進に向けた看護技術学習科目での ブレンディッド型授業の実践

三宮 有里*, 村中 陽子*, 熊谷 たまき*, 寺岡 三左子*, 鈴木 小百合*

A Practice of Blended Learning to Promote Individual Learning on the Basic Nursing Skills

Yuri SANNOMIYA*, Yoko MURANAKA*, Tamaki KUMAGAI*, Misako TERAOKA*, Sayuri SUZUKI*

1. はじめに

実践の科学といわれる看護学の教育において、学生の看護実践能力の育成・強化は、重要な教授・学習課題の一つとなっている。「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」⁽¹⁾では、看護師教育の現状と課題として、限られた時間の中で学ぶべき知識が多くなり、カリキュラムが過密になっているため、学生は主体的に思考して学ぶ余裕がないことを挙げ、限られた時間の中で最大限の教育効果を上げようという教授・学習方略を工夫する必要性を指摘している。

そのうえ、看護大学の1学年の定員数はほかの医療者教育機関よりも多い傾向にあり、本学部においては、平成18年度より入学定員を変更し、1学年の学生数は100名から200名に倍増した。200名の学生に対し、授業という限られた時間の中での教育効果を上げるためには、いっそう学生の主体的な個別学習を促進するよう教育環境を整えることが求められた。

近年、学習を動機づけ、個別学習を支援する教育方法の一つとして、ICTが活用されている。看護技術教育においても新たな教育方法としてeラーニングが導入され、その効果や利点が報告されている⁽²⁾⁽³⁾。また、対面型授業とeラーニングを融合させたブレンディッド型の授業は、学生が自分のペースで自由な時間にeラーニングを利用して授業の予習・復習を行うことができ、対面型授業を補完し学習効果を上げることができることに利点があるとされている⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

そこで、平成21年度より、学習を動機づけ、授業時間外の学生の個別学習を促すことが期待できるブレンディッド型授業の運営を開始した⁽⁴⁾。

この授業運営の開始から、科目終了時に調査を実施し、受講者の学習成果を把握し、その結果を次年度の授業設計に反映させて進めてきた。具体的には、平成22年度は、学習者の視点を補強したeラーニングコンテンツを作成することの必要性があると考え、教材作成の過程に学生を加えて、eラーニングによる学習の改善点に関する意見交換をし、内容を精選した⁽⁷⁾。これまでは予習に焦点を当てたeラーニングを作成してきたが、復習をする者は復習をしない者に比べ、自己調整学習方略の得点が高いという調査結果を受け、平成23年度は、授業の復習を強化するために、復習用のeラーニングコンテンツを作成した。復習用のeラーニングコンテンツを作成したからといって、学生の復習、さらには個別学習を促進するのは困難である。そのため、復習のみならず、予習をして授業を受け、その後復習するといった一連の学習の流れで学生が学習するように、個別学習を動機づける授業を設計することが重要であると考えた。

本研究では、平成24年度の看護技術学習科目「基礎看護方法論Ⅱ」において、学生の主体的な個別学習活動を支援する教育実践を実施し、予習をして授業を受け、さらに復習をするといったパターン学習の教育効果を評価することを目的とした。

* 順天堂大学医療看護学部 (Faculty of Health Care and Nursing, Juntendo University)

受付日：2013年4月18日；再受付日：2013年7月23日；採録日：2013年8月22日